



港区新橋5-15-5  
交通ビル3F

国労東日本本部

発行責任者 伊藤秀樹  
編集責任者 伊藤隆夫

2007年1月31日

第653号

定価 20 円

組合員の購読料は  
組合費に含まれています

もう一人の仲間を国労に

**国労加入**を  
大胆に訴えよう

アドレス <http://www.e-nru.com>

## 第10回組織拡大会議開催

# 運動に自信を持ち、今こそ国労加入を呼びかけよう!

1月20日、国労東日本は第10回組織拡大会議を東京新橋・交通ビルにて開催した。会議には、各地方本部・地区本部・支部などの組織部長、組織対策担当者48名が参加。この間の地方・職場で取り組む中での成果や教訓点、さらには具体的に国労加入を勝ち取った仲間の報告に学びあい、当面する組織対策行動の意思統一をした。

今号は、①第10回組織拡大会議報告、②弁護士、地方代表などの参加により開催した「中労委一括和解報告会」などについて、③仙台から仲間の人事異動を「祝う会」報告。④「いなほ脱線事故」から1年、伊藤委員長が現地を訪れ犠牲者への献花をすると共に、国労の安全輸送に対する新潟地本の取り組みを掲載し、以下、報告とする。

## 和解以降連続加入!! ・ 点から線に ・

昨年11月6日の中央労働委員会における一括和解以降の短期間で8名の仲間が国労の旗の下に結集・加入する状況の中で開催された「第10回組織拡大会議」。

伊藤委員長の主催者挨拶に続き、高野書記長から「経過及び組織強化・拡大にむけた提起」(別掲)を行い、6名の仲間からの特別報告を全体で学びあった。

その後、休憩を挟み全体討論を行い7名の仲間から成果・教訓点、今後の決意や取り組みの報告があり高野書記長のま



とめ、木村青年部長の団結ガンバローで当面する取り組みの意思統一とした。

## 次への闘いを意思統一



1月21日、国労東日本本部は「中労委一括和解報告会」を静岡県・熱海市で開催した。報告会には、この間の労働委員会闘争を担っていただいた弁護士、松井中労委労働者側委員、全国交運共済生協代表、国労本部・地方・支部代表など68名が出席。冒頭挨拶した伊藤委員長は、「調印式後20歳の若い仲間が国労加入し以降今日まで8名の加入を勝ち取った。この仲間たちの加入に自信を持つと共に、この20年の差別攻撃に対し国労が潰れなかった事に自信と確信を持つ。そしてその原点は組織の団結力であり、引き続き、職場から仕事総点検運動を！」と強調した。

続いて、宮里弁護士の挨拶と報告をはじめとして、各来賓より挨拶をいただいた。その後、高野書記長から国労東日本としての当面する取り組みについて提起し全体で確認した。

翌22日は、神奈川地区本部久保沢委員長・東神奈川電車区分会吉田書記長に案内をしていただき、松井中労委労働者側委員、岡部弁護士、本部・東日本・東京地本代表で、静岡県・裾野市に眠る元東神奈川電車区分会・故渡辺尚氏のお墓に献花を行った。

JR発足以降の執拗な国労バッジ攻撃の中で、東神奈川電車区においても着用者に対する攻撃は乗務を外すなど徹底して個人を追い詰め、こうした中で昭和62年6月13日に24歳の若さで残念ながら自ら命を絶ってしまった。渡辺さん



のご冥福を祈り、制服姿の生前の写真に「和解」を報告し、二度とこのような不幸なことが発生しない労使関係の構築を墓前に誓った。

## 提案のポイント— 全力で実行しよう

### 職場から不当労働行為を許さない取り組み

- ①職制を利用したの勧誘、特定組合への誘導は不当労働行為にあたり、相手のアキレス腱になる事を「事ある毎に」指摘する。
- ②不当労働行為の監視体制を全職場で確立する。
- ③東労組の組織拡大に重要な役割を担ってきた指導車掌やグリーンアドバイザー・チャレンジサポーターについて、指定にあたり所属組合による差別の無いように、取り組みを強化する。

### 組織拡大に向けた具体的な取り組み

- ◆青年部と連携を取り、国労内の平成採用者交流会を開催し、同期への呼びかけ等の取り組みへの意思統一を図る。
- ◆これまでに国労を脱退していった仲間に対し復帰を呼びかける。
- ◆東労組の現状や「中労委での一括和解」等、状況が変化している事を訴え、加入・復帰を呼びかける。
- ◆組合員の関係を通じた情報収集に全力を挙げる。
- ◆シニア再雇用者の組織化をはかる。

# 佐藤 忍さん20年ぶりに運転士復帰実現なる

## 退職した組合員など40名で祝う会を開催

仙台発

昨年12月1日、佐藤 忍さん(48歳)が19年9ヶ月ぶりに運転士に復帰することができました。昨年11月6日、国労とJR東日本会社による和解が成立し、「出向・配転事件」における関連事件として取り扱われていたもので、3年の出向期間を待って、小牛田運輸区運転士の発令がされました。

国鉄「分割・民営化」される直前の1987年3月、運転士職2年目で東労組組合員だった佐藤さんは、小牛田運転所首席助役から「直営店に行って欲しい。2年くらいで戻って来られるから。皆、出向か直営店に必ず協力してもらわなければならない。」と一方的に古川駅直営店に配転されました。

JRとなったその年10月には、小牛田駅クリーニング取次店に配転。翌88年3月、これまで兼務発令だった佐藤さんは、兼務解除となる営業指導係の発令を受け、小牛田運転所の所長に苦情処理の申告をするも「東労組で一括して取り下げています」との対応に、その11月、当時小牛田駅分会長(現宮城県栗原市議)から「運転士に戻る運動を共に闘おう」との一言に共鳴し、国労に加入しました。

しかし、配転攻撃はその後も続き、92年まで2箇所をたらい回しにされた後の3月、鳴子温泉駅営業指導係の配転を受け、03年まで勤務し、その年9月、運転適正検査を受け「戻れる日も近いか」と思った矢先の12月、ジェーアールテクノサービス(関連会社)に出向に出されました。そして3年間の出向を最後に、昨年12月、運転士に復帰しました。これまで一時もあきらめず「必ず運転士に戻るぞ」と家族との強い結束のもと実現したものとと言えます。

昨年12月には、佐藤さんの20年の足跡をともに闘った

仲間や国労運転士で退職した分会OBなど40名が復帰を祝いました。会場では、集まった仲間それぞれが20年の国労組合員としての闘いの足跡を振り返り、佐藤さんの闘いに学び合うなか、新たな情勢認識のもとさらなる国労運動の発展を誓い合い、国鉄労働組歌を合唱し共に喜び合いました。



この間佐藤さんは、仙台地本内の国労運転士4名の仲間とともに和解となった「配転・出向事件」と合わせ運転士復帰の闘いを継続してきました。御礼のあいさつでは、再びハンドルを握ることなく亡くなった先輩や定年を迎え断念せざるを得なかった先輩、また、今年60歳定年を迎えるため限定運転士のまま退職を迎えつつある先輩たちに対し、「俺だけ戻るとは両手挙げて喜ばない、しかし、戻った以上は運転士職の厳しい労働実態が待っていると看做しても、ともに運転士復帰を闘った先輩たちや20年間で支えてくれた仲間、そして家族のためにも、定年までの12年間、国労運転士として生き、恩返しをする」と話していました。

# 新潟発 冥福を祈り

## いなほ脱線事故から1年 伊藤委員長が献花

### 効率より安全優先の JR 会社に労働組合がチェック機能をはたそう

死者5人、負傷者33人を出した『いなほ脱線事故』から1年となる12月25日、庄内町で慰霊式が催されました。

がん予防・検診から治療まで、とことんサポート!



**新健康応援MAX**

健康支援金をプラス!  
通院も入院も同額保障に!

がんの保障 + 病気・ケガの保障  
21世紀がん保障 特約MAX21

■募集代理店  
**アベニール 株式会社** 〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F  
☎03-3437-6810 ☎03-3437-6822

〈引受保険会社〉  
**Aflac** (アメリカンファミリー生命保険会社)  
東京第三営業本部 第三支社  
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル  
Tel.03-3344-1889 Fax.03-3344-4036

資料請求いただいたお客様の個人情報の利用目的は、アフラックの各種商品やサービスの案内・提供・維持管理となります。

◎詳しくは、パンフレットや「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

AFN広告-2005-090-0510015 6月3日

この日、東日本本部は、伊藤委員長が、現地を訪れ、犠牲者の冥福を祈り献花をしました。

## 再発防止

マスコミは再発防止の立場から一斉に特集を組み『風速計だけでなく気象情報も活用していれば・・・』『事前に防風柵があれば・・・。減速していれば・・・』



と遺族の無念を伝えています。また県警捜査本部からも、当日、徐行など規制処置が取られていなかったことから強風対策に問題はなかったか『自然災害の側面だけでなく事故を予測し、安全を確保する責任』をJRに求める指摘もあります。

新潟地方本部は、いなほ事故以来、解明要求含めて重要な問題点を提起してきましたが、未だに会社は明らかにしていません。『命を運ぶ企業として信頼される会社』つまり『安全・安心な鉄道』をつくるためには、労働組合が、そのチェック機能を十分に発揮すること、会社がそれらの声に謙虚に耳を傾ける姿勢が求められます。